



2004年8月13日 沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故

沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故に抗議する宜野湾市民大会を開催

(2004年9月12日)

参加者: 約3万人

当日までの著名数: 73, 253 名



2004年9月12日 米軍ヘリ墜落事故に抗議する宜野湾市民大会

2004年9月12日(日)午後2時より沖縄国際大学グラウンドにて、沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落に抗議し、普天間飛行場の早期返還を求める宜野湾市民大会を開催しました。この大会は、これまで誰もが恐れていた米軍機の民間地への墜落という大惨事が起き、計り知れない物的・精神的被害を受けた市民を無視したヘリ飛行再開に対する怒り、そして、改めて認識させられた世界一危険な普天間飛行場の即時閉鎖・早期返還を求める市民・県民の切なる想いを再確認する大会となりました。

1. 被害の徹底調査と事故原因を明らかにし、すべての被害に対する謝罪と完全補償を早急に実施すること

1. すべての米軍機の民間地上空での飛行を直ちに中止すること

1. ヘリ基地としての運用を中止すること

1. 危険極まりない普天間飛行場を早期返還すること

1. SACO合意を見直し、辺野古沖への移設を再考すること

1. 日米地位協定を抜本的に見直しすること



普天間飛行場の危険性ステッカー
(配布開始: 2006年8月13日)

沖縄大への米軍ヘリ墜落事故から2年を迎えて 「普天間飛行場の危険性」ステッカー作成

市では6年前の米軍ヘリ墜落事故を最後の警告と受け止め、昼夜を問わず住宅地上空を飛び交う米軍機の飛行を直ちに中止させ、激しい騒音や墜落の危険、恐怖と隣り合わせの生活から市民を解放するために、一日も早い危険性の除去を最優先に行うことを日米両政府に強く求めています。市民・県民に対する普天間飛行場の危険性の啓発事業として「危険極まりない普天間飛行場の危険性」を表したデザインを募集し、ステッカーを作成しました。ステッカーは宜野湾市役所 基地渉外課で配布しており、また市公用車にも貼り付け、市内外へ普天間飛行場の危険性をPRし、啓発しています。

普天間飛行場の飛行実態について配信

普天間飛行場の騒音・飛行実態を県内外へ発信し、現状を確認してもらう目的として、宜野湾市のホームページに普天間飛行場を離着陸する米軍機の動画映像を配信しています。動画映像には普天間飛行場所属機である CH-53、CH-46、AH-1N、FA-18、KC-130 等から発生する騒音や、夜間訓練の様子、また市内住宅地上空で行われる KC-130、P3C、CH-46 等によるタッチ&ゴー訓練についての映像も含まれています。

宜野湾市ホームページ

<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/>

